

令和6年度第1回芦屋市福祉のまちづくり委員会委員名簿

役職名	氏名	出身団体等の名称及び役職
委員	藤井 博志	関西学院大学人間福祉学部教授
	姫野 通子	芦屋市老人クラブ連合会 監事
	岡田 雅代	芦屋市身体障害者福祉協会 会計（常任理事）
	池内 くみ	芦屋市青少年育成愛護委員会 愛護委員
	北村 広美	多文化共生センターひょうご 代表
	岩本 仁紀子	芦屋市民生児童委員協議会 副会長
	山本 弘美	打出浜地区福祉委員会 代表
	吉野 哲夫	芦屋市自治会連合会 副会長
	富久 ちづ子	カワセミ 代表
	竹迫 留利子	ナルク芦屋 代表
	松本 明宏	芦屋市社会福祉法人連絡協議会 会長
	笠谷 泰宏	株式会社 笠谷工務店 代表取締役社長
	埴山 陽子	社会福祉法人芦屋市社会福祉協議会 理事
	浅田 陽一	教育委員会教育部学校教育室学校支援課長
	小川 智瑞子	企画部市長公室市民参画・協働推進課長
	山田 弥生	こども福祉部長

芦屋市福祉のまちづくり委員会関係者・関係課・事務局

関係者		
所属		氏名
第1層生活支援 コーディネーター	社会福祉法人 芦屋市社会福祉協議会	寺岡 康世
	社会福祉法人 聖徳園	船寺 恵子
第2層生活支援 コーディネーター	株式会社 アクティブライフ	藤本 亮
	社会福祉法人 芦屋市社会福祉協議会	寺岡 由記
	社会福祉法人 きらくえん	崎山 真澄
関係課		
所属		氏名
監査指導課	課長	浅野 理恵子
生活援護課	課長	阿南 尚子
障がい福祉課	課長	川口 弥良
高齢介護課	課長	竹内 典子
高齢介護課	主幹（高齢者施策担当課長）	永田 佳嗣
こども家庭・保健センター	センター長	廣瀬 香
事務局		
所属		氏名
芦屋市 社会福祉協議会	事務局長	山川 範
	地域福祉推進課長	三谷 百香
	地域福祉係長	宮平 太
	地域福祉係主査	針山 大輔
	相談支援係主査	三芳 学
	地域福祉係	和田 真砂子
	地域福祉係	青木 明日香
	課長	岩本 和加子
地域福祉課	主幹（地域共生推進担当課長）	吉川 里香
	課長補佐	堂ノ前 貴洋
	地域福祉係長	亀岡 菜奈
	地域福祉係員	上月 祐紀

(様式第1号)

■ 会議録 □ 会議要旨

会議の名称	令和6年度第1回芦屋市福祉のまちづくり委員会
日時	令和6年10月4日(金) 午後1時から午後3時
場所	芦屋市消防庁舎3階 多目的ホール
出席者	委員長 藤井 博志 副委員長 松本 明宏 委員 姫野 通子、岡田 雅代、池内 くみ、北村 広美、岩本 仁紀子 山本 弘美、富久 ちづ子、竹迫 留利子、笠谷 泰宏、埴山 陽子、 浅田 陽一、山田 弥生 欠席委員 吉野 哲夫、小川 智瑞子 関係者 第1層生活支援コーディネーター 寺岡 康世 第2層生活支援コーディネーター 寺岡 由記 関係課 こども福祉部福祉室生活援護課 阿南 尚子 こども福祉部福祉室高齢介護課 永田 佳嗣
事務局	芦屋市社会福祉協議会 山川 範、三谷 百香、宮平 太、針山 大輔、三芳 学、和田 真砂子、 青木 明日香 こども福祉部福祉室地域福祉課 岩本 和加子、吉川 里香、堂ノ前 貴洋、亀岡 菜奈、上月 祐紀

1 会議次第

(1) 開 会

【協議会の成立について】

開始時点で委員16名中14名の出席を確認

(2) 委員委嘱

(3) 委員及び事務局の紹介

(4) 委員長、副委員長の選出

(5) 議 事

ア 地域福祉、地域づくりについて

イ 福祉のまちづくり委員会の位置付け

ウ 地域づくり実践報告

エ 各委員の取組

オ 意見交換

(6) 閉 会

2 提出資料(省略)

3 審議内容

エ 各委員の取組(委員の活動及び委員会への期待や話したい課題など、一部抜粋)

(姫野委員)

芦屋市老人クラブ連合会は、会員が2,500人で、芦屋市には45の老人会があり、町ごと

に活動をしており、その活動報告を芦屋市老人クラブ連合会と連携をとり合ってやっております。芦屋市老人クラブ連合会は、毎年、ウォークラリーや輪投げ、ダーツなど、年に6回

ほど、各町から100人余り集まり、お話をしながらゲームを楽しんでおります。
また、サークルが11ぐらいあり、麻雀やフラダンス、大正琴、折り紙教室などのクラブにもたくさん入られて、楽しんでおられます。

80歳前後ぐらいから、90歳を超えても参加されており、楽しく過ごされております。皆さん生き生きとされており、家の中でじっとしているよりも、外に出て楽しい時間を過ごすということは健康につながりますし、長生きにもつながっているように感じております。高齢者の仲間づくりや健康増進に力を入れて取り組んでおります。

(池内委員)

芦屋市愛護委員会は、各小学校区8班に分かれて、200名ほどで活動しています。主に小中学校のPTAから選出されていますが、先輩保護者で40年ぐらい続けてこれている方がいます。多世代にわたってお母さんたちの情報交換など、月に1回、班集会を行い、昔の子育てから、現在、未来に向けての子育ての話もやっている感じです。

今回、福祉関係に子育ての人間が入ってどういことを話せばいいのかと思っていましたが、今日勉強した中で、参加していただければありがたいことで、最近共働きの方が増えているので、早朝に子どもが1人になってしまう時間ができてしまうので、神戸市とか大阪では、どんどん早朝の登校が進んでいますが、ぜひ芦屋市でも地域ぐるみで、早朝の登校児童を学校で見守っていただければありがたいなと思っており、この機会に福祉関係の高齢者や、地域の福祉のつながりの方が、そういう場所に出てきていただければいいなと思っております。

(北村委員)

多文化共生センターひょうご代表の北村と申します。

私自身は、阪神深江駅の近辺を拠点に活動しています。外国の方の相談対応をしているときに難しいのが、行政区と外国人の居住などと、動きが一致しないということです。

というのは、この辺りで言うと阪神電車沿線、昔は川沿いにまちが栄えていましたが、それが今、外国人も阪神電車沿いに職場、居住地があるような状況で、西は灘区ぐらいから、東は芦屋、西宮、尼崎、西淀川区ぐらいまでがコミュニティという感じで動いているので、そのあたりが行政とやるときの1つ難しさでもあり、逆に民間だから行政が担えない部分、例えば市外の方ということになると、民間の立場でおつなぎするというのもやっております。

21日に分庁舎で講演させていただいたときのデータでは、芦屋市は9万2,000人ほどの人口で、そのうち2,000人が日本国籍ではないという外国の方だそうです。今非常に増えているのがネパール、バングラデシュ、ミャンマーの方などで、いずれもあまり英語が通じず、倍々で増えているという感じで、支援が追いついていないというような形です。特に言語という意味でのリソースも限られていますので、いろいろなところが協働してというか、通訳者は取り合いになっているような状況なので、支援している人を何とか支援する側まで育成したいというのがあります。

障がい者のところでもありましたが、差別の対象になることも多いです。今日チラシを持ってきましたが、10月27日に多文化フェスティバルがありますので、よかったらお越しください。ボランティアチラシですが、まだ募集していますので、よかったらご参加ください。ありがとうございます。

(岩本委員)

民生児童委員協議会の岩本です。よろしく願いいたします。

資料として、「芦屋市民生児童委員協議会、芦屋市版活動強化方策」をお配りしておりますので、ご覧ください。

活動強化方策は、平成29年8月に、民生委員制度100周年のときに全国版が出来ましたが、それを受けて地域でつくってくださいという指示がありましたので、芦屋市で手を挙げ、6年かかってやっと出来上がったものです。9つのブロックの皆さんにアンケートをし、年2回ほど、どういうふうに作っていいか意見交換をしました。地域のつながりや、先ほど委員

長がおっしゃったように、民生委員も地域のつながりを強化していくということを一番に上げております。

今年1年、ブロックごとに、どこを強化して活動しようかということを協議して、各ブロックで決めてもらいました。その結果、**民生委員を地域で知ってもらうこと、民生委員の活動を知ってもらうことが一番**ではないかという意見が多かったです。

民生委員ってどんな人なの？という質問が多いので、今年は各地域で、それをスローガンにして活動していきたいと思っております。

もう一つ付け加えたいのは、先ほど制度の狭間にある方をどうするのかとおっしゃっていましたが、民生委員活動で年1回、福祉を高める運動をしております。それは各地域の民生委員が、気になる人たち、それこそ制度の狭間の人たち、こういう人がいるけどどうすればいいかということ、行政の方や関係機関をお招きして、協議して解決策を求めています。解決できないときが多いですが、そういう報告もしております。以上です。

(山本委員)

打出浜地区福祉推進委員をしています山本です。

地区福祉委員会というのは、芦屋市内で9地区あり、各小学校区を中心に動いています。私たちが始めた頃は、高齢者を対象ということで、食事会や居場所づくりなどをやってきましたが、現在は、高齢者だけではなく、子どもたちが気になるという話で、各地区いろいろな形で考えてやっています。

地区で考えると、打出浜は自治会と一緒にやっていくのがやりやすく、春日と打出は、春日公園でお花見や盆踊りなど、盛大にされていて、そこに多世代の多くの人が集まり、また、東南海はもともと世帯数が多いので、子ども神輿やラジオ体操など、100人以上参加されています。

そのほか、居場所づくりや生きがいデイをやっていますが、そこに出てこれない方、なかなか地域に出てこれない方もいらっしゃいますので、打出浜地区では、79歳以上の方の高齢者訪問を年1回実施しています。

今の課題は、私が始めて30年になりますが、私たちの仕事を引き継いでいただく方、次の世代が生まれないことです。これは自治会もそうですが、若手の方の地域を思う心が大きな力になるので、そこをどううまく持っていくのかというのが今の課題です。私たちが楽しく活動することを見てもらえたらなと思っています。以上です。

(岡田委員)

芦屋市身体障害者福祉協会の岡田です。芦屋市身体障害者福祉協会は、視覚障がい、聴覚障がい、私のような身体障がい、それから内部障がいの4つの部門が協働で活動しております。いろいろな障がいの人が1つの団体で活動するというのは珍しくて、大きな市町であれば、車椅子の方ばかりの団体、視覚障がいの方ばかりの団体になることが多いですが、芦屋市はそれほど人口も多くないためか、この団体全員でも100人程度なので、一緒に活動しております。

それによって、同じ障がい者でも、一緒に活動することによる気づきがたくさんあります。例えば、目の見えない方がスマホを触っていらっしゃる、とても速い音声で声を出して触っていらっしゃるのを間近に見ると、「スマホ触れるんだ」「パソコン触れるんだ」ということを肌で感じることができます。やはり、障がい者理解というのは、実際に目の前でその方が生活している様子を感じるとというのが一番だと思っております。

我々、身体障害者福祉協会では、目が見えなくてもピアノが弾ける方やお話が上手な方、タレント性を持った方などたくさんおられて、社会福祉協議会さんの福祉学習に参加させていただいております。

福祉学習では、子どもたちに障がい者を理解してもらい、考えてもらうということも大事ですが、実は、我々にとってもすごくありがたいステージで、今まで生活していて、大変だったことや、少し違うなと思っていた部分をどんどん発表できる場になります。

それは、当日資料の最後の「共生社会をつくるまちづくりで考えること」、1行目の「みんなが少しずつ役割をもつ」こと、**障がい者もケアされる側ではなく、一緒にコミュニティに巻き込んでもらって、どんどん活用してもらって、一緒に地域づくりができないかな、したいな**と思っております。だから、この会議でも障がい者を活用して、座っているだけではなく、意見を聞きながら考えていける、そんなことができてきたらいいなと思っております。

(山田委員)

こども福祉部の山田でございます。4月の人事異動で代わってまいりまして、今日この会議自体が初めてですが、今度ともどうぞよろしくお願いします。

何をやっているかということですが、この委員会が所掌する地域福祉課をはじめとして、制度福祉を統括する立場にあります。

直近の取組で言いますと、10月の広報でもご案内していますが、地域包括支援センター、芦屋では高齢者生活支援センターと呼びますが、4か所から5か所に増設いたしました。また広報等をご覧いただけたらと思います。

今日のお話の中で、連携が必要だという話が出てきましたが、芦屋市は確かに縦割りが残っている部分もありますが、そういうところを打破しようと日々努力しているところです。教育委員会の社会教育登録団体と連携しながら、通っていただける場所や居場所を皆さんにご紹介できるように、社会教育登録団体にご登録いただいている団体に対して、「ご紹介しませんか？」のようなことを今後は進めていく予定です。そのようなことを1つずつ進めながら、地域共生社会を進めていくという行政の大きな役割を遂行していきたいと思っております。

芦屋市は、市域も狭いので、本当に顔の見える関係だと思います。ただ、どこの市でも共通する人材の発掘や世代の交代、そのような課題は共通してありますので、会議などで皆さんと連携を取りながら、少しでも解決し地域共生社会を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(浅田委員)

教育委員会学校支援課で取組を進めています浅田と申します。よろしくお願いします。

2点、お話しさせていただこうと思います。「支援」というキーワード、そしてもう一つ、「ネットワーク」というキーワードをもとにお話を進めさせていただきます。

まず「支援」というところで、うちは学校支援課になりますので、主に市長が掲げる「ちょうどの学び」、そして「ちょうどの学び」を達成するには、やはり子どもたちが安心して学校生活を過ごしていくということが大切になりますので、例えば、いじめ・不登校という問題に向き合っており、特に不登校に関しては、「のびのび学級」という施設をつくって、昨年度は44名のお子さんが通って、一人一人の社会的自立といいますか、自分の成長を遂げてくれています。そのほか、外国人の生徒の取組や教育相談としてチラシをつくって、保護者の方やお子様に直接相談をいただきながら対応を進めております。

「ネットワーク」という部分では、トライやるウィークをしており、今年とてもうれしかった出来事としては、トライやるウィークの事前学習で、学校の「総合的な学習」の時間に様々な福祉学習を進めた学校がありました。福祉に触れ合うことによって、子どもたちがトライやるウィークでも福祉分野の取組を進めたいと、これまで以上に割合が増えてきたという報告がございました。

また、当課は人権学習も進めていますので、そのような学校での取組をさらに充実させ、子どもたちが様々な学びを得て、将来社会の担い手として、今回取り上げられたテーマに貢献で

きることが一番大切なかなと思っています。

今日お話を聞きまして、やはり学校は、地域の皆さんが集われる拠点としてふさわしいものかなと思っています。また、今、部活動の地域移行ということで、地域の皆さんのお力を借りて、何とか子どもたちのスポーツ活動を充実させていけないかというところになりますが、そのような拠点を含めた形で、いろいろな可能性を自分自身がこの会議で考えさせてもらい、協議させていただければと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。以上です。

(帰山委員)

社会福祉協議会の理事をしております。日頃、社会福祉協議会の職員の皆さんが、様々な世代の方々に、時にはきついお仕事もあると思いますが、笑顔を絶やさずに一生懸命頑張ってくださいているお姿に感謝の気持ちでいっぱいです。

社会福祉協議会のことについては、先ほど十分お話していただきましたし、私自身も勉強中ですので、私個人の活動になりますが、福祉推進委員を17年させていただいて、私が携わっている芦屋のボランティアは、防犯協会や朝日ヶ丘コムスク、更生保護女性会、朝日ヶ丘町自治会役員など、芦屋で子どもたちを成長させていただいた恩返し of の気持ちで毎日暮らせていただいております。

社会福祉協議会に、市民に手作りの布おもちゃを貸し出すシステムがありますが、そのおもちゃを手作りして修繕している「あしやおもちゃ工場」という団体があり、毎週そこに集まって布おもちゃをつくるのですが、メンバーの中に90歳を超えた方が2人いらっしゃいます。

更生保護女性会でも80歳代後半になられた方が、幼稚園でのお茶会の開催、市内の小学校での福祉学習で車椅子やアイマスクなどの体験のときのリーダーになって、元気でボランティア活動をされておられる姿を見て、いくつになっても個人の持っている得意な分野を活かして社会に貢献できる、そのような場をこの場で皆さんにいろいろ教えていただきながら、私も考えていけたらいいなと思います。

そして、ここに来て、改めて連携は本当に大事なことで、すばらしいことだなと思いました。様々な団体が連携して、パワーアップして、福祉に対する優しい気持ちがある市内に満ちあふれるような、そんなことをここで学ばせていただけたらと思っています。以上です。

(笠谷委員)

笠谷工務店の笠谷と申します。

当社は、業平町で建築の設計と施工をしております。今年で創業118年になります。

今日は、民間企業はうちだけかなと思いつつながら名簿を拝見していました。何でお声がけいただいたのかなと振り返ってみまして、現在当社で、生活困窮者の方の支援と言いますか、月に1回会社に来ていただいて、当社のビルの植栽のお手入れのお手伝いをしていただいております。この1年か2年ぐらい、やっていただいています。月に1回1時間やっていただいて、それに対して労働の対価として、お金をいただいちゃってあります。それも最初は少し調整させていただいて、お金を渡すのはどうなのかなということもありましたが、ただ単に作業するということだけではなくて、働くということは、そこに労働の対価がついて初めて働くということになると思ったので、報酬を払わせてくださいということで、やっていただいております。

昨年の7月から、芦屋市の道路・公園の包括管理の仕事を当社で請け負っており、今は業平公園の花壇のお手入れを生活困窮者の方にやっていただいています。今は外での仕事ですが、書類の整理など部屋の中ですることができることもやっていただけないかなと計画をしているところです。

今日の会議を伺っていましたが、全て福祉というテーマでお話が展開されており、私にはと

ても難しくて、いろいろ勉強していかないといけないのかなと改めて思いました。組織がたくさん登場しているというのと、役割が細かく分かれていたり、区分けが分かれていたり、とてもきめ細かな感じがしましたが、私にとっては、とても複雑に感じまして、その分かりやすさというところを勉強していきたいなと思いました。以上です。

(竹迫委員)

ナルクです。ナルクというのは、日本アクティブライフクラブというところから来ていて、NALCというところからナルクになっています。これは全国組織のボランティア団体で、77拠点、全国に持っており、ナルク芦屋は、会員が8月末現在で206名、142世帯です。広報紙を配っておりますので、参考にしていただければと思っています。

基本は、会員同士の助け合いから始まって、現在26年目になっています。表紙ですが、安心つなぐ地域と合同ミーティングということで、いつも総会の前に、今どんな暮らしをされているか、どんなことで困っているかなど、アンケートをとっており、下の助け合い意向というところで、買い物代行とか、自分がしてほしいか、あるいは自分が提供できるか、あるいは将来的にしてもらえるかという問いにお答えいただいております。会員同士で助け合ったときにポイント制というのをつくっており、大体1時間で1ポイント、それを貯めて、自分が困ってきたときにそのポイントを使って助けてもらうというようなグループです。

ボランティア団体ですので、会員同士のつながりというのがありますが、エルホームの売店の運営を任されており、売店の当番をしていただくことでポイントもたまるといようなこともしております。

そのほか、エルホームやその他の高齢者施設のボランティア活動もさせていただいています。エルホームでは、入所されている方の髪を乾かす髪乾燥イベントのボランティアスタッフなどもしております。社会福祉協議会のボランティア団体グループにも入っておりますので、お声がかかれれば対応できるように、皆さんに声かけをして参加していただいております。

市内では4ブロックあり、各ブロックで年3回程度、お花見やランチなどをやっております。ボランティアをするだけではなく、会員同士がつながり合うことで、おうちでひきこもってしまったりすることがないように、できるだけたくさんの人と触れ合うように、バスツアーや新年会などをして、会員同士の交流も深めております。

(富久委員)

ボランティアグループカワセミの富久と申します。

私たちは完全なボランティアグループで、まちづくりの一番底辺で、いろいろな意見が拾えるかなと思い、その上の組織のところに顔を出してみたいなという思いもあって来ました。私たちは本当に地域の中の1点であって、その1点がたくさん集まって線になり、面になり、芦屋市の福祉が少しでも向上すればいいのかなと思っています。

カワセミは、シーサイドタウンにある潮見集会所で行っております。月2回、10時に集まって12時には解散するというグループです。一番大きな問題は、会場費が高かったり、ボランティアの人が集まってくれなかったり、それは地域の人たちが集まりますから、みんなにお願いし合って、できる人がするという感じで、誰がボランティアかというのが分かりづらいという、責任は誰かが持つと思いますが、来た人が何かをしようという感じで運営しております。

今日もその中で話がありましたが、西浜公園の清掃を楽しむ会が今年度で活動を終えられるそうです。その会では、秋にいつも紅葉コンサートをされ、地域にある潮見中学校の吹奏楽部の人たちを呼んで、その広場で演奏してもらうというのを年間行事の1つとしてされています。「今年で最後です」「みんなに周知しておいてください」とポスターを持ってこられました。私たちがちょうど集まっていたので、私たちがその活動を引き継いでいったらどうだろう

と提案しました。すると、男性が私たちのグループには何人かいて、責任のある仕事をすることに非常にいきいきとされるという男性の特性があるようで、市との交渉等、当日は行けないと言われましたが、それまでのことをしておいてくれたら私たちがするからというようなことで、何とかうまくいけたらいいなと思いつつ、今日はちょうど活動日でしたが、帰ってきました。

また、地域に、緑保育所があるので、コロナで子どもたちをそのような場に呼べるかどうか、まだ先生にお話は聞いていませんが、子どもたちが西浜公園にお散歩に来たときに、開催日であれば、寄ってくれて、30分ほど一緒に交流してくれれば、元気が出るだろうと地域の人たちのことを考えながら活動しております。どうぞよろしくお願いします。

(松本副委員長)

社会福祉法人ですが、なかなか当事者にならないと関わることのない団体で、「何かあったらよろしくお願いします」と言われますが、私の仕事上、「関わらないのが一番幸せですよ」とお答えさせていただいております。

私もこの10年、社会福祉法人が地域にある意味とか、価値は何なのかというのをずっと考えてきました。というも、悪くなってから福祉制度を利用される方が多くて、本当はもっと早く知り合って、そうなる前に関わっていると、これだけの専門職がいるのに、できたことがあるのではないかとということで、時代的にも介護予防が始まり、当法人では、朝日ヶ丘に「コミュニティスペースふらっと」を数年前に設けました。ここで地域の方の活動を支えたり、我々ともう少し緩く関係性を持てたり、知り合うことでもっと長くご自宅で安心して暮らせるのではないかとということで、今活動させていただいております。社会的処方という言葉がありますが、医療的な治療ではなく、いろいろなところに参加していただくことで元気になったり、安心したりというのも目指しているところです。

この10年、コミュニティスペースふらっとは笠谷工務店さんに設計もデザインもしていただいて、非常に来やすい場所になっておりますが、そこで「助けたい人」の活動を募集すると、たくさん来られますが、「助けてほしい人」は集めても来なくて、ここのマッチングは非常に難しいということと、お一人暮らし、高齢者世帯、管理人さんがいないマンション、入り口が自動ドアで入れないマンションが芦屋市内の山手地区も増えており、地域の関係性が非常に難しいというのを日々実感しています。

また、ニュースにも出ている専門職の不足です。これも人口減少で難しいということもありますが、社会福祉法人としては、これからもっと地域との関わりを強めていきたいという中で、先ほどあったように子ども分野に専門職がなかなか関わっていないということもありますので、今年度は子ども分野に力を入れて、私達よりもう少し若い、現場に近いスタッフが実務者会で集まり、いろいろなイベントをやろうというのを企画しておりますので、ぜひ楽しみにしてください。

また、今週末は朝日ヶ丘小学校の夏祭りで、フライドポテトと焼きそばを出しますので、ぜひ皆さん、お時間があれば遊びに来ていただければと思います。ありがとうございます。



▲全内容記載の議事録は
このQRコードからご確認
ください。